業界の課題を読む　非鉄リサイクル特集

銅

「売り先ない」常態化

検収厳格化 輸入品と競合も

日本の銅スクラップ業界は今後、これまでの「慣例」が通用しない業界に変わっていく。伸銅・電線・製錬メーカーといった銅スクラップの主要ユーザーの購買意欲は、地金の使用比率の上昇や使用するスクラップの品種シフト、輸入スクラップの採用などで、今後も減退傾向が続くとみられ、スクラップ問屋筋は手元に玉があっても売り先がない、という傾向が一層強まる。

スクラップ品位についても、中国の環境規制や低品位スクラップの流通拡大の余波で、日本のスクラップユーザーの検収も厳格化しており、入荷したスクラップをひと手間・ふた手間かけて異物や異種金属を選別・除去しなければ、売れない・または売値が下がる、といった状況が加速する。スクラップを、より細分化・高品位化し、売り先も国内頼みでは生き残れない業界に変わっていきそうだ。

さらなる選別を要求される込み黄銅

銅スクラップユーザーの製品需要や生産が上向けば、スクラップの市中購買量も増えるというのが、これまでの慣例だった。ただ、ここ数年、銅スクラップユーザーの伸銅・電線メーカーなどは、製品需要が堅調だった期間も含めて、スクラップ問屋とかわす長期納入契約（ロング）の数量や価格条件を引き下げ続けてきた。

伸銅・電線メーカーの生産が想定以上に上向き、原料をロングで賄えない場合は、まとまった数量を調達できる一部の直納問屋にだけスポット発注するため、大多数のスクラップ問屋が取り残されるという構図が出来上がった。

また、国内スクラップではなく輸入スクラップの調達量も増えている。財務省発表の輸入通関統計によると、5月の銅スクラップ輸入量は前年同月比3％増の1万2093㌧で、昨年10月以降8カ月連続して増えた。

1―5月の累計も前年同期比23・8％増の6万3634㌧で、特に米国からの輸入量は約2倍の1万4425㌧に達した。

国内問屋のロングの条件が悪化する一方で、輸入スクラップが増え続けるといった歪な構図になっている。関西地区で深刻な黄銅削り粉の荷余りも解消される見通しは全く立っておらず、一部の大手黄銅棒メーカーが製品生産量と関係なく削り粉の購買量を減らし続けており、荷余りがあまりにも長期化しているため、従来のような荷動きに戻ることはもうないと感じている問屋も少なくない。

中国が今月から銅スクラップの輸入基準を厳格化し、1回目のライセンスを発行した。発行前は、中国側の業者にライセンスが出るか否かが注目されたが、実際にライセンスが出た今でも安心はできない。

中国向けの主要な輸出品目である込み黄銅は、通常、金属以外のゴムやプラスチックなどが付着しており、これまでは少量であれば除去することなくそのまま輸出業者が買い取り、流通価格も異物の混入を加味した水準が一般的だった。

ただ、足元は中国税関の検収が厳格化した影響や、異物混入によるシップバックのリスク回避や、現地ユーザーの輸入ライセンスはく奪を危ぐして、日本側の輸出業者が目視で確認できるゴムパッキンや異種金属の事前除去を扱い筋各社に依頼しており、除去していないものは買い取り価格が大幅に下げられている。「手作業でしか取れないので手間と時間が非常にかかる」（スクラップ問屋）。

扱い筋は、異物を除去することで売値が上がるのではなく、価格や数量を現状維持するために手間をかける必要があるため、選別に対するモチベーションは低く、渋々労力を割いているのが現状だ。

スクラップの国内発生については、銅製品の生産量や需要量で比例するというよりは、従来通り建値の上下に翻弄される傾向が強く、今以上に玉が売り難く、スクラップを選別する必要性がさらに高まれば、仕事量ではなく相場で稼ぐ業者も増えてくる。

ロンクを手掛ける直納問屋は、相場が上がれば売り込み増・発生増で高値の余剰在庫を抱えざるを得ず、相場が下がれば無い物高を強いられるなど、かじ取りは難しくなっている。（石橋　栄作）

アルミ

グローバル市場化 加速

輸出、国内前処理が重要に

輸入塊の動向が国内の製品価格だけでなく、国内スクラップ価格にも強い影響を及ぼしている。海外のミックスメタル（ゾルバ）価格も同様だ。国内からは、使用済みアルミ缶（UBC）やビス付きサッシを輸出する動きが年々強まっている。ある関東の原料問屋は「昔はロンドン金属取引所（LME）のアルミ相場や為替だけを見ていれば良かった。今は世界中のアルミに関する情報や価格動向を注視しなければならなくなった」と指摘する。

そのアルミ価格に目を向けると「すべてが安い」（メーカー問屋）状況にある。欧州産や中国産の製品価格が、2018年末で中国が「第7類」と分類する雑品や雑電線など低品位銅スクラップの輸入を禁止したことをきっかけに、アルミスクラップ業界でもグローバルへの意識が加速したといえる。「国内の需給バランスのみで、スクラップ価格が決まらなくなっている」（関東の原料問屋）。その一方で、国内でスクラップを処理することの重要性は、ますます高まっている。

足元では国内の製品価格を大きく下回る。ベースメタルも値を下げてきた。

ある二次合金メーカーは「割安な輸入塊に合わせて、国内スクラップ価格を引き下げたいが、実際にはそこまで下げられない」と漏らす。国内スクラップを手当することは、メーカーにとっては安定供給の面から重要だ。だが、数カ月先を見据えた場合、入着する輸入塊の価格ほど、スクラップ価格が下がっている可能性は低いとみる。先行きの相場変動リスクがあるとはいえ、メーカーとしてはコスト面から輸入塊を一部購入する選択肢を選ぶことも考えざるを得ない。

輸入塊との競合が常態化しているアルミ二次合金スクラップの合金削り粉はキロ100円をされている（二次合金メーカー）。別の二次合金メーカーは「戦ったら自らの首を絞めるだけ」と話す。

LMEアルミ相場も軟調なため、アルミスクラップ価格は1年以上にわたり下落基調を続けている。二次合金メーカー各社は「アルミ相場が強くないこともあって、慌ててスクラップを購入する必要はない」と述べる。

スクラップの買い手市場が鮮明なことから、販路拡大の一手として輸出を検討する原料問屋も出てきた。逆に、一時期はインド人が国内に買い付けの商談に来ることもあった。ただ、本格的に輸出を手掛けるとなれば、海外業者と長く付き合うためにも、ある程度の数量を扱うことが求められる。スポットであれば、品質面で相手側からクレームも入りやすく「長くは続かない」（南関東の原料問屋）のが現状だという。

メーカーとしては「東南アジア向けの輸出は続かないだろう」との見方を示す。もし、中国の環境規制強化などにより海外への輸出が難しいとなれば、国内で前処理の仕事が増えることになる。

中国向けに輸出されていた品物を含め、リサイクルの難しいスクラップは増加傾向にある。アルミスクラップであれば、例えばサッシ系の断熱材、缶の表面塗料などになる。軽量化の素材として脚光を浴びるアルミだが、軽さを追及するために今後も薄くなる方向とみられ、さらに他の元素を添加して製品になる傾向もある。ところが、スクラップ時にはひとまとめにされてしまう。これをきちんと分けることを「国内業者には求められている」（メーカー）という。（藤田　章嗣）

輸入塊の競合が常態化しているアルミ二次合金スクラップの合金削り粉はキロ100円を切るかどうか。仮に輸入塊の価格を意識すれば、70円あたりで購入せざるを得なくなる」と指摘する。

その輸入塊と自社製品との価格競争を、二次合金メーカーは避けている。中国をはじめとする各国から割安なADC12が入ってきており「国内市場は荒らされている」と述べる。

貴金属・レアメタル・特殊金属
非鉄金属全般の売買問屋
貴金属・レアメタルリサイクルのノウハウをアドバイス致します。
株式会社 福岡非鉄メタル
〒819-1134 福岡県糸島市多久819-4（前原IC南産業団地内）
TEL.（092）321-0395 FAX.（092）321-0530

金属リサイクル特集 2019
資源循環型社会の発展を支える
有力非鉄スクラップディーラー

ステンレス原料及製品
300系・400系・耐熱鋼・ニッケル・42合金
インコロイ・インコネル・チタン
コバルト系・その他特殊金属原料
日鉄ステンレス㈱指定問屋
Yamasaki Metal&Co.,Ltd.
株式会社 山﨑金属商会
代表取締役社長 山 崎 康 雄
本 社 山口県光市島田6丁目1－8
電話（0833）77-2600 FAX（0833）77-2608

TOYO SHIGEN CO.LTD
ステンレス・特殊金属リサイクル
株式会社 東 予 資 源
代表取締役社長 志 賀 忠 男
本社・工場 〒799-1316 愛媛県西条市福成寺甲99番地
第2工場 〒799-1362 愛媛県西条市今在家814-1
TEL.0898-76-7600 FAX.0898-64-6400
E-mail t.toyo-sus@muse.ocn.ne.jp
愛媛県認定循環型事業所

ステンレス・レアメタル・リサイクルセンター
（Ni・Cr・Mo・Co・W・Tiなど特殊金属含有）
信友金属株式会社
SHINYU METAL CO.,LTD
日鉄ステンレス㈱指定直納問屋
代表取締役社長 遠藤 雅博
本 社：広島市佐伯区八幡1－11－8
電話(082)928－1881㈹ FAX(082)927－1230
湯来工場：広島市佐伯区湯来町伏谷 湯来企業団地内
URL http://www.shinyu-metal.co.jp

電線リサイクル協議会 加盟企業（五十音順）

株式会社 石原商店
本社 〒210-0858 神奈川県川崎市川崎区大川町十一－一
代表者 林 茂 也
電話 〇四四（三三三三）〇五〇〇
FAX 〇四四（三三三三）〇五〇一

ウスイ金属株式会社
市川事業本部 〒272-0014 千葉県市川市田尻三－七－三五
代表者 薄 井 啓 介
電話 〇四七三（七七）一二一一
FAX 〇四七三（七七）七〇二七

株式会社 オオハシ
本社事務所 〒230-0061 神奈川県横浜市鶴見区佃野町十一－一 タクトホーム鶴見ビル二階
代表者 塩 野 武 男
電話 〇四五（五〇二）〇二四一
FAX 〇四五（五〇二）三〇五三

桑子産業株式会社
本社 〒370-0046 群馬県高崎市江木町六五九
代表者 桑 子 義 之
電話 〇二七三（二五）二四四八
FAX 〇二七三（二六）六八八一

新藤金属株式会社
行田事業所 〒347-0063 埼玉県行田市真名坂二〇三－一
代表者 新 藤 武 次
電話 〇四八（五五九）四一七一
FAX 〇四八（五五九）四一七三

スガヤメタル株式会社
本社事務所 〒223-0025 横浜市都築区早渕一－二五－三三 港北ニュータウン工業団地
代表者 菅 谷 洋 子
電話 〇四五（五九一）六二六六
FAX 〇四五（五九二）二八〇一

株式会社 高松金属
本社工場 〒289-1212 千葉県山武市木原二三九七－五二
代表者 高 松 昌 男
電話 〇四七五（八八）二二七五
FAX 〇四七五（八八）二二九一

髙山金属商事株式会社
海老名営業所 〒243-0425 神奈川県海老名市中野二－五－二〇
代表者 髙 山 謙 治
電話 〇四六（二三八）三四六八
FAX 〇四六（二三八）五八六五

田子金属株式会社
本社 〒131-0033 東京都墨田区向島一－二七－一四
代表者 田 子 政 夫
電話 〇三（三六二六）一四五一
FAX 〇三（三六二六）一二四四

東港金属株式会社
本社 〒143-0003 東京都大田区京浜島二－二〇－四
代表者 福 田 隆
電話 〇三（三七九〇）一七五一
FAX 〇三（三七九〇）一七五五

東上金属株式会社
本社 〒355-0071 埼玉県東松山市新郷七七－三 東松山工業団地
代表者 山 崎 豊
電話 〇四九三（二三）九一八一
FAX 〇四九三（二四）三八八五

直富商事株式会社
本社 〒381-0022 長野県長野市大字大豆島三三九七－六
代表者 木 下 繁 夫
電話 〇二六（二二二二）一八八〇
FAX 〇二六（二二二二）一八八一

日新工業株式会社
本社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町一－十二－一 新有楽町ビル十階
代表者 中 村 一 敬
電話 〇三（三二一二）三七〇一
FAX 〇三（三二一二）三七二〇

保田産業合資会社
本社 〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野二－十一－九
代表者 保 田 一 彦
電話 〇四五（三一一四）〇八五一
FAX 〇四五（三一一四）七四七九

有限会社 山﨑商店
本社工場 〒253-0081 神奈川県茅ケ崎市下寺尾二〇九一
代表者 山 崎 敬 二
電話 〇四六七（五一）五六一五
FAX 〇四六七（五一）三二九九

株式会社 ヨシムラ
本社 〒029-3207 岩手県一関市花泉町油島字花欠三三－三
代表者 吉 村 黄 吉
電話 〇一九一（八二）三七一〇
FAX 〇一九一（八二）四九五一